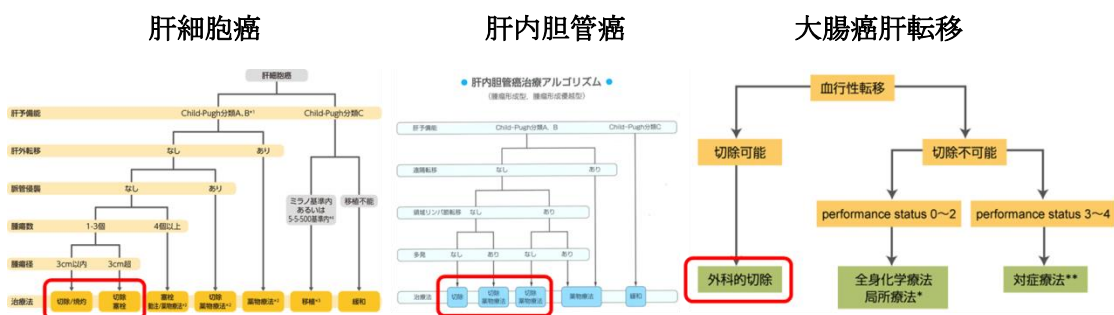


当院の肝がん手術について

肝がんには**肝細胞がん**、**肝内胆管がん**、**転移性肝がん**などがあります。肝がんを疑うと、がんの大きさ、個数、転移の有無、肝臓の状態などを調べます。手術が可能な場合は手術（肝切除）を行います。入院期間は7～10日程度のことが多いです。

肝細胞がん、肝内胆管がん、大腸癌肝転移の治療ガイドラインを以下にお示しします。手術（肝切除）はいずれ肝がんにおいても重要な治療となっています。



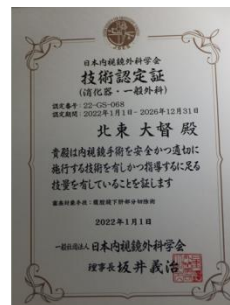
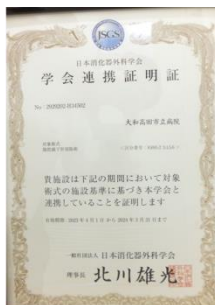
当院の肝切除の特徴

① 腹腔鏡下肝切除

当院は腹腔鏡下肝切除、高難度腹腔鏡下肝切除の実施可能施設の認定を取得しています。腹腔鏡下肝切除は開腹肝切除より傷が小さいので術後の痛みが少なく、回復が早いことが知られています。がんの大きさや個数によっては開腹肝切除が必要な場合もありますが、当院では腹腔鏡下肝切除を標準手術としています。手術は肝臓分野で日本内視鏡外科学会の技術認定を受けている医師が中心に行います。

開腹肝切除の創部

腹腔鏡下肝切除の創部



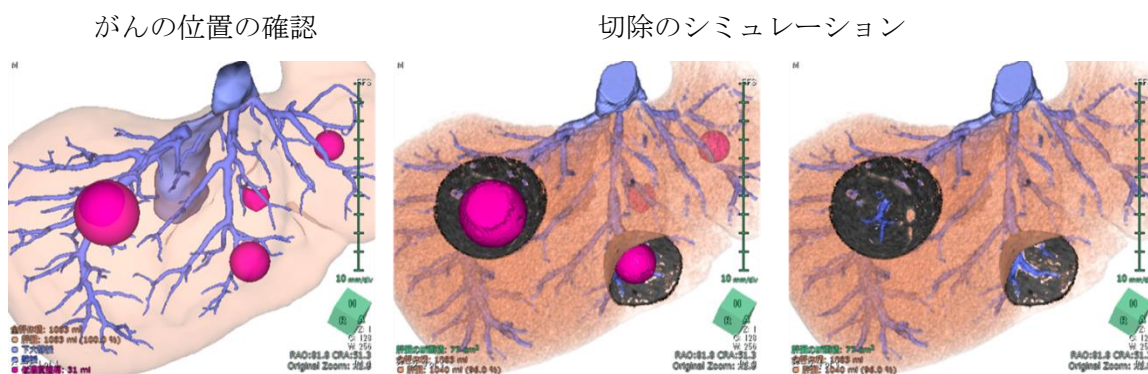
② ICG 蛍光法を用いた肝切除

当院は肝臓がんや肝臓の一部を光らせることができる ICG 蛍光法を用いて肝切除を行っています。がんの確実な切除や、肝臓の解剖に沿った正確な肝切除に役立つ方法で、当院ではすべての手術に用いています。



③ 正確な術前シミュレーション

当院は術前に撮影した CT 画像を用いて 3D 画像を作成し、手術のシミュレーションを行っています。手術方法の確認や、残る肝臓の体積の測定などが行えます。安全な肝切除にはシミュレーションは必須であり、当院では肝切除を行う患者さん全員に行っています。



手術方法のシミュレーション

シミュレーション通りの手術

